



# スマートフォン向け放送局「NOTTV」の開局に向けて

株式会社mmbi 代表取締役社長 二木 治成



## 1. はじめに

皆さんこんにちは。マルチメディア放送は昔から「通信と放送の融合」とよく言われていたのですが、今は、「放送と通信の連携」と言葉を変えて言っています。

放送と通信は基本的に哲学の違うものなので、連携させるものと思っております。例えば、私は通信の出身なのですが、通信は中身を見てはいけません。いかにセキュリティのかかった中身を通すか、そのために信頼性とセキュリティを高め、その中で1対1で相手と通信します。

放送は中身を見なくてはなりません。不特定多数の人に番組や情報を提供するので、中身をちゃんと見て送ります。この違うものが融合して一つになることはありません。しかし、これらを連携させることによって、いろいろな可能性や組合せができます。このような考え方で今までマルチメディア放送の議論をしてきました。

## 2. モバキャスト (V-Highマルチメディア放送) について

まずマルチメディア放送には、V-HighとV-Lowがあるので、私どもは「V-Highマルチメディア放送」で、これを「モバキャスト」と呼んでいます。CSやBS、地デジなどの番組全体を表す言葉として「モバキャスト」があり、そしてその上にNOTTVという放送局があります。このモバキャストは御案

内のように、テレビのアナログ放送が終わった後の10チャンネル、11チャンネル、12チャンネルの周波数の帯域14.5MHz幅を33セグメントに分割したものです。この33セグメントを使ってV-Highマルチメディア放送をやることになります。これは、全国向け放送です。V-Lowは、ローカルな放送になります。

## 3. 利用周波数と制度整備

制度では、この33セグメントを13セグメントという塊でオペレーションする形式が二つあります。この形式では13セグメントの帯域を自由にリアルタイム型放送と蓄積型放送に組み合わせることができます。

そして、ワンセグと同じように1セグメントを使って送る形式が七つあります。ですから、制度上は最大15事業者入れるようになっています。しかし、今は、私どもmmbiの大規模事業者枠1社しか申請をしていない状況です。

これにはいろいろな理由があります。端末の普及とか、メディアの状況、それから関心はあるけれども、ビジネスモデルをどう作っていくのかももう少し様子を見たいと考えている事業者が結構いるという状況です。私どもは、4月1日にサービスを開始しますが、それを踏まえてまたいろいろな動きが出てくるのではないかと考えています。

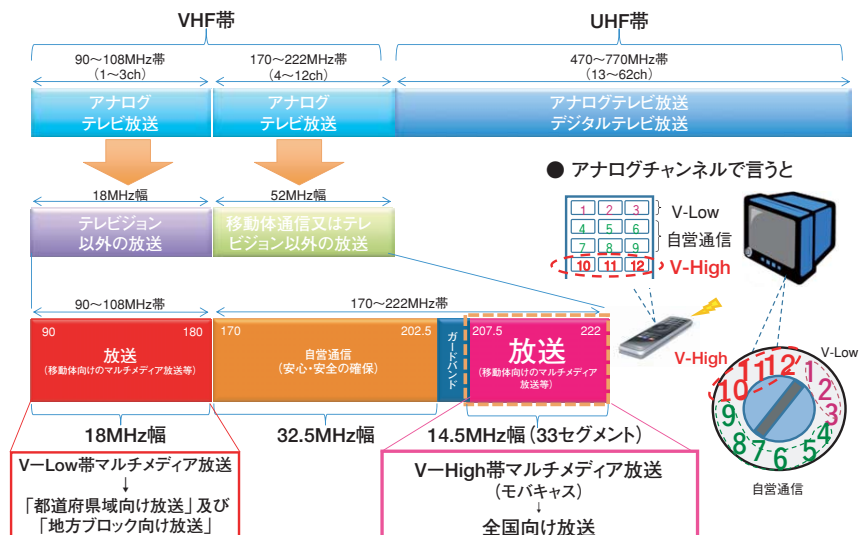


図1. 利用周波数と放送形態



図2. モバキャストのサービス

#### 4. モバキャストのサービスについて

このV-Highマルチメディア放送は、モバキャストと呼びますが、リアルタイム型放送と蓄積型放送、それからスマートフォンを中心に展開しますので通信が主軸となっています。このリアルタイム型放送は従来の地デジと同じ放送形態です。ただ、帯域が1セグメント、2セグメント、3セグメントと自由に変えられます。こういったリアルタイム型放送です。

それから、蓄積型放送は読んで字のごとくスマートフォンのメモリに蓄積できるのですが、実はもっと本質的なことがあります。これは通信で送ると同じ情報を放送で送ることなのです。放送という手段を使って通信で送るIPパケットデータが送信可能なのです。例えば画像や映像やファイルを放送で送ることができます。したがって、これは放送と通信の連携の一つの意味合いを持っています。

「放送コンテンツ」というコンテナと「通信コンテンツ」というコンテナが「放送」というコンテナ船で運ばれるイメージです。そして、そこに「通信」という別の船が一緒に寄り添っていくというのがこの「V-Highマルチメディア放送」です。この関係をもって放送と通信の連携とも言えますし、放送という手段を使って通信の情報を送るといっても放送と通信の連携と言えると思います。

#### 5. お客様側から見たリアルタイム型放送と蓄積型放送

リアルタイム型放送と蓄積型放送について、お客様向けには二つの視聴スタイルがあります。通常のテレビと同じように映像を見るサービスを「リアルタイム視聴（RT）」と呼んでいます。それから、端末に一時蓄積して自分の見たい時間

に見る、そういう映像視聴スタイルを「シフトタイム視聴（ST）」と言います。

そして、映像以外のコンテンツを全部総称して「デジタルコンテンツ」と言います。これには電子新聞や電子書籍などのコンテンツがありますが、通信と同じIPパケットで送ってスマートフォンに一時蓄積し、後から見ることができます。

#### 6. mmbiと「NOTTV」

mmbiが提供する放送局の名を「NOTTV」と言います。ハード事業者は、基幹放送局提供事業者と定義されており、衛星放送（BS）のB-SAT社と同じようにインフラの会社で、全国1社です。この上に番組を提供するソフト事業者、例えば衛星放送ではWOWOWなどがそれに当たりますが、そういう事業者の中の一つに私どものmmbiがあります。

制度上は、このソフト事業者には、幾つかの事業者が参入できるのですが、今回の申請では、mmbi1社が申請しました。したがって、私どもの100%子会社であるジャパン・モバイルキャストというインフラの会社が1社あり、この上にソフト事業者としての私どもmmbiが番組を提供することになります。

ちなみに、V-Highマルチメディア放送全体を「モバキャスト」と言います。

#### 7. mmbiが提供するサービス「NOTTV」とは

NOTTVは、ノッティーヴィーと発音するのですが、「テレビにできないサービスを提供する」「テレビを超えたサービス



を提供したい」という思いを込めています。決して、テレビを否定しているわけではありません。このキャラクターはモンスターなのですが、名前はノッティー君と言います。

NOTTVは放送に通信という機能が加わった、つまり、放送に上り回線が加わりました、100%双方向のいわゆるソーシャルテレビであり、ツイッターやフェイスブックが最初から使える環境になっています。番組もそれを前提に作ります。それから、放送ですので、ビデオオンデマンドとは異なり、ライブ、収録番組に関わらず、今みんなに見てほしいという旬な情報を意識して作ります。

それから放送ですので、ボタンをポンと押すとスッと画面が出てくるシンプルな形にしたいと思っています。今、テレビのリモコンはいっぱいボタンがあって操作が難しいです。ネットを見るとさらに何回かアクションが必要になります。NOTTVでは、ボタンを1回か2回押すだけで番組が見られる形にします。

## 8. モバイルとテレビとソーシャルメディア

昔、インターネットテレビとかGoogle TVなどいろいろな呼び方がありましたが、今は「スマートテレビ」という言葉が一般的になりつつあります。いわゆるインターネットとテレビが一体化しているわけです。NOTTVはリアルタイム型放送と蓄積型放送と移動体通信がくっついていますので、サービスコンセプトは「モバイル・スマートテレビ」です。

そして、リアルタイム型放送と蓄積型放送それぞれの組合せで、色々なサービスを提供できます。例えば、リアルタイム型放送と蓄積型放送の連携では、リアルタイム型放送の番組を見ながら、その裏側でそれに関連する情報を蓄積型放送

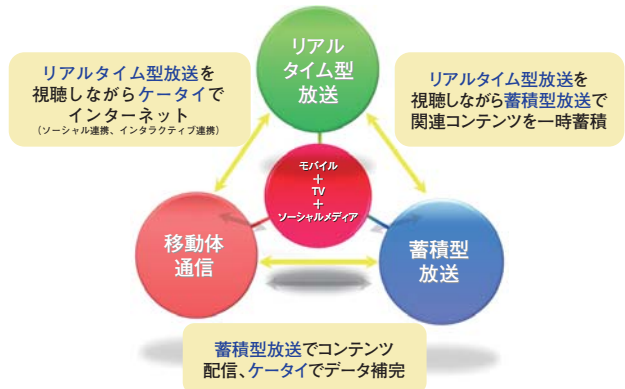


図3. 「NOTTV」のサービスコンセプトーモバイル・スマートTVー

で取得できます。それからリアルタイム型放送と通信の連携では、ライブの番組を見ながらツイッターやフェイスブックができます。「モバイル」と「テレビ」と「ソーシャルメディア」が組み合わせられているのが特徴です。

## 9. 魅力的な番組・コンテンツ

モバイル・スマートテレビですので、繰り返しになりますが、100%オンラインでつながっています。これを前提にした番組を作っていきます。「どこよりも、誰よりも、早く知る」、「新しいことに、出会える」、「簡単」、それからツイッター、フェイスブックなどで「共有、共感」が得られる。こういうものをコンセプトに番組を作っていこうと思っています。

リアルタイム型放送のチャンネル数は3チャンネルあります。当初は1チャンネルぐらいで考えていたのですが、ソフト事業者が今回、mmbi1社になりました。その場合、お客様にとってチャンネルを切り替える楽しみがないので、3チャンネル準備しました。1チャンネルと2チャンネルは、情報番組、

- ・月額420円でリアルタイム型放送3チャンネルと蓄積型放送を提供し、多様なコンテンツを配信
- ・プレミアム料金(追加料金)で利用できるコンテンツも今後、配信予定
- ・帯域を時間によって可変利用することができるため、柔軟な番組編成が可能



図4. 魅力的な番組・コンテンツ (編成表のイメージ)





ドラマ、音楽番組やスポーツ番組などの総合編成です。

ニュースチャンネルでは24時間ニュースをやります。CSでは、日本テレビですと「日テレNEWS24」、TBSですと「TBSニュースバード」という24時間ニュースがありますが、こと連携して、同じ番組を同時にNOTTVでも流します。そうしますと、普通はCSは家でしか見られませんが、それがいつでも、どこでも、24時間ニュースを見ることができるようになります。災害などがあった場合でも、それに関する臨時ニュースをすぐに見ることができます。これは一つの売りになるのではないかと考えています。

サービス利用料は月額420円（税込）ですが、スポーツやライブなど、ちょっとお金がかかっても見たいという番組については、さらにプレミアム料金をいただいて提供する予定です。

残った帯域は蓄積型放送で利用します。夜の間に電子新聞や電子書籍などの情報を流したいと思っています。なお、全部で13セグメントですが、1セグメントは電子番組表を送る予定です。

## 10. 「NOTTV」のサービスイメージ

リアルタイム型放送と通信の連携ですと、ライブを見ながらツイッターが同時にできます。放送の場合、番組の中では同時にツイッターを流せません。これは不特定多数に情報が配信されるため、中身を見てから流すことになります。したがって、必ずタイミングが遅れます。NOTTVのスマートフォン上の画面は放送が上、通信が下と別になっています。それが一つの端末の画面で併せて見ることができますので、同時にツイッターができます。

それからインタラクティブ連携ができますので、例えばオークション番組やクイズ番組なども、会場と視聴者が通信によって一体化し、オークションでビッドしたり、あるいはクイズ番組で答えていくようなことができます。

また、リアルタイム型放送と蓄積型放送は13セグメントの中で同時に放送できます。したがって、ライブ番組を見ながらそれに関連する情報や楽曲を蓄積型放送で送り、端末に一時蓄積し、それを後から楽しむこともできます。

いろいろなデジタルコンテンツ、例えばアプリケーションやクーポン、デコメ、HTML、ゲーム、電子新聞、電子書籍

も蓄積型放送で送ることができます。このように、通信で送るようなデジタルコンテンツは蓄積型放送で基本的に送ることができます。カーナビの地図データなども送ることができます。

もう一つ特徴的なのは災害放送です。緊急地震速報にも対応しており、速報ニュースも流します。それから携帯でするので、放送を見ていなくても、地震が起きたときには同時に「エリアメール」が流れます。このように、両方を組み合わせられるので、モバキャスト対応端末は災害に強いです。

さらに、蓄積型放送で、例えば被災地で通信が途絶したり、あるいは輻輳している時に、安否情報とか被災地情報などを放送を使って流しておいて、後でそれを見ることができます。これから仕組みを考えていかなければいけないのですが、私どもの強みと考えています。

## 11. 「NOTTV」の特徴をまとめると

まとめますと、サービス利用料月額420円でリアルタイム型放送3チャンネルが見られます。インタラクティブを想定した番組を作ります。オリジナルの番組も作ります。それからモバイルで、ワンセグに比べ約10倍の高画質です。もちろん、基幹放送事業者として災害放送を実施します。

## 12. 事業の発展に向けた取組

事業の展開についてお話しします。私どもNOTTVはオリジナル番組などの魅力ある番組を、御利用しやすい料金で提供します。ジャパン・モバイルキャストは、とにかくエリアを早期に構築していきます。ドコモなどの携帯キャリアには端末の早期普及をお願いします。この三つがうまく連動すれば事業は発展していくと思っています。

サービス開始時には、東京スカイツリーから放送電波を出します。愛知、三重、大阪、京都、兵庫、滋賀、奈良、福岡、そして沖縄も放送エリアになります。

出資会社であるドコモ、フジテレビ、スカパーJSAT、日本テレビ放送網、東京放送ホールディングス、電通など、日本を代表する企業と協力しながら、2012年4月の開局に向けて準備を進めてまいります。

(2012年1月31日 第398回ITUクラブ例会より)